


小学生バスケットボール教室インタビュー


毎週日曜日に開催されているバスケットボール教室。たくさんの子供たちが参加し盛り上がりを見せています。今回は、中心となって活躍している6年生の子供たちにインタビューしてみました。

- ① Q: どうしてバスケットボール教室に参加するようになったのですか？
- ② Q: バスケットボール教室で楽しいことは何ですか？
- ③ Q: バスケットボール教室に参加してよかったことは何ですか？
- ④ Q: 最後に一言！




中脇 司寿矢くん

- ① 親に誘われて入りました。
- ② 参加して試合をみんなとできることが楽しいです。
- ③ バスケが上手になっていくことが嬉しいです。
- ④ 中学校に入ってもバスケットボールを頑張りたい！！




木戸脇 璃乃さん

- ① 友達に誘われてはじめました
- ② 他の学校の友達とバスケットボールができることが楽しいです。
- ③ バスケも上手になったし、友達もたくさん増えたこと
- ④ 残りバスケットボール教室も少しだけ最後まで頑張りたい



岡田修大くん

- ① 親に誘われて入りました。
- ② みんなとバスケットボールをできることが楽しい！
- ③ たくさんの友達ができたこと！
- ④ もっと頑張って自分より上手い友達を追い抜きたいです！



小井戸 七海さん

- ① 姉がバスケ部でかっこよかったからやってみようと思いました。
- ② ゲームができることが楽しい
- ③ バスケが上手になったこと
- ④ 中学校でも生かしていけるように頑張りたいです。

住吉人会長のご冥福をお祈りします

2013年5月30日高山市バスケットボール協会会長の住吉人さんがご逝去されました。

住会長は、これまで高山市バスケットボール協会会長として、高山市のバスケットボール発展にご尽力いただきました。平成12年にはインターハイ（全国高校総合体育大会）平成17年には全中（全国中学校体育大会）、そして昨年度はぎふ清流国体（国民体育大会）を高山の地で開催し、大会の成功に向けて多大なるお力添えを頂きました。

高山市という小さな町でこれだけ多くの大会を成功できたのも「バスケットボール」という競技の素晴らしさと感動をより多くの人に理解してほしい、高山市をバスケットボールの町にしたいという住会長の熱い思いがあったからです。私たちは、住会長の思いを受け継ぎ、これまで以上に高山市がバスケットボールの町としてさらなる発展を遂げていくように邁進していきたいと思えます。

謹んで追悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

編集後記

『蚤（のみ）の法則』という話を先日聞きました。普通蚤は1mくらい跳ぶ力があるらしいのですが、高さ30cmのピンに、蚤を入れて蓋をかぶせると跳べなくなるそうです。最初蚤は、ピンから逃げ出そうとして、何度も何度も跳び上がるのですが蓋にぶつかってしまい逃げ出すことができません。そのまま1週間程たつと蓋ギリギリのところまでしか跳ばなくなってしまうそうです。その蚤は、ピンから出しても30cm以上の高さまで跳ぶことが出来ず、2度と1mの高さまで跳ぶことは出来ないのだそうです。『蚤の法則』とは小さな殻に閉じこもっていきなり、少しの失敗で挑戦することを諦めていたりし、自分で壁

を作っていると二度と高いところまで跳べなくなってしまう法則のことを言うそうです。しかし、この法則には続きがあります。もとの高さまで飛ぶことが出来なくなった蚤をまた1m跳ぶ方法があるのです。それは、1m飛んでいる蚤の集団に、まげてあげるのだそうです。まわりの志しやレベルが高い環境の中に入ることだ力が伸びていくのだそうです。国体が終わって1年が経ちました。祭りの後のようで寂しい気持ちもありますが、「インターハイ」「全中」「国体」を成功した町、「バスケットボールの町」としてこれからも高い志をもって盛り上げていけるといいと思っています。(Y.Y)



小野秀二監督クリニック

ぎふ清流国体が大成功に終わってから1年が過ぎました。平成25年11月16日、17日の2日間、国体1周年記念事業として小野秀二監督（元JBLトヨタ自動車、JBL日立サンロッカーズ監督）を招いて市内の中高生を中心にバスケットボールクリニックが開催されました。2日間のクリニックでは、パス、ドリブル、シュート、ディフェンス…と試合に生きるための土台の部分をきめ細かく丁寧に教えていただきました。クリニック1日目に小野監督が「今日のクリニックの中で唯一残念だったことがある。」と話してくれたことがありました。それは、3人組みのチーム編成する中で生徒を順番に並ばせ、「1、2、3、1、2、3・・・」と番号を言っていく場面のときに何回



も生徒達が失敗したことでした。「バスケットボールはミスが起こるスポーツだが、1人1人がミスを少なくしていくためによく考え、まわりをよく見ていかないと上達しないから」という理由でした。参加した生徒達に感想を聞くと「やっぱり試合で勝つためには練習の一つ一つ意識してやらないと駄目だし、もっと考えてバスケットをやらないといけないと思った」と話していました。クリニックを通して本当に多くのことを学べる機会になったと思います。また、日本を代表する監督に指導していただいたことは、参加した生徒達はもちろんのこと、指導者の先生方にとって非常に勉強になる2日間になったと思います。



現在活動中のチームについての紹介

- ①チームの目標
- ②チームとして大切にしていること
- ③応援してくださる方に一言

日枝中学校 男子



- ①県大会優勝
- ②1つのシュート、1つのパスも無駄にせず、集中して練習に取り組んでいます。もちろん日常生活も精一杯!
- ③ユニフォームも新しくいただき、今まで以上に感謝の気持ちを大切に、最後まであきらめず、精一杯戦います。

日枝中学校 女子



- ①県大会出場
- ②日常では挨拶の声を。プレー中では苦しくなったときに仲間に声を。声を出して練習に取り組んでいます。
- ③今好きなバスケットができることは当たり前ではないので、感謝の気持ちを忘れず全力でプレーします。

松倉中学校 男子



- ①東海大会出場。
- ②声を出すことで、自分やチームの雰囲気を感じ上げます。声を出すことは、技術に関係なくできるので、大切にしています。
- ③全員で声を出し、雰囲気の良いバスケット部、そして東海大会出場を目指します。応援よろしくお願いします。

松倉中学校 女子



- ①全国大会出場!!
- ②とにかく一生懸命ボールを追うことです。どのチームにも負けない気持ちでルーズボールを奪いとります。みんなで声を出して心一つにして毎日の練習をしています。
- ③私たちは、厳しい状況においても、あきらめず最後まで全力で戦います。松倉女子の元気で一生懸命なところを見てください。

中山中学校 男子



- ①「県大会出場・県大会で勝つ」
- ②「礼・信・鍛」。そして、練習中のメニューの切り替えを早くすることを頑張っています。
- ③どんなに負けている試合でも最後まであきらめずに自分たちの力を全て出し切ります。応援よろしくお願いします。

中山中学校 女子



- ①県大会ベスト4
- ②1回1回の練習を100%でやること、常に声を出して意欲をもって練習することです。
- ③目標に向かって全員で一緒になって、戦うので応援よろしくお願いします。

東山中学校 男子



- ①「地区大会出場!!」
- ②「礼儀」「挨拶」「常に一生懸命取り組む」ことを大切にいつも全力で頑張っています。
- ③感謝の気持ちを忘れず最後の最後まであきらめずに全力で戦い抜きます!! 応援よろしくお願いします。

東山中学校 女子



- ①「地区大会出場」「一つでも多く勝つ」
- ②一人ひとりが声を出し、チームの雰囲気を盛り上げながら積極的に練習に取り組むことを大切にしています。
- ③どんな試合でも、あきらめずに精一杯戦い抜くので、応援よろしくお願いします。

国府中学校 男子



- ①県大会出場
- ②練習では声を出し合い、誰一人として手を抜かないで全力でやることを頑張っています。
- ③どんな試合でも最後まであきらめずに声をかけ合って走りぬきます。応援よろしくお願いします。

国府中学校 女子



- ①県大会出場
- ②全力の声、素早い集合、感謝の心を大切に、チーム一丸となってバスケの技を磨いています。
- ③最後の最後まで仲間を信じて全力でボールを追い、ゴールを決めます。応援よろしくお願いします。

清見中学校 女子



- ①県大会優勝
- ②「5人しかいない」をプラスに考え、常に仲間と納得するまで話し合い、お互いを理解し合って「つなぐ」の精神を大切にしています。
- ③忙しい中指導して下さるコーチ、先輩や親さんの支えには感謝しています。その思いを胸に最後まで頑張り抜きます。

北陵中学校 女子



- ①地区大会出場
- ②大きな声を出すことと目標をもって試合に臨むこと!
- ③いつも応援ありがとうございます。自分たちの力を出し切れる試合ができるように努力します!

中体連を終えて



松倉中 (県ベスト4) : 男子バスケットボール部キャプテン 洞奥 恒輝

僕は、小学校の時、高山ミニバスに所属していました。だから中学校でもバスケットを続けたかったので、バスケットボール部に入部しました。ミニバスのときの背番号は8番だったので、中学校でキャプテンを任されたときは、感心しました。キャプテンとしての役割を十分に果たすことができず、叱られ、キャプテンを辞めたいと思ったこともありましたが、でも、そんなときにチームの仲間や両親に励まされ、最後まで頑張ることができました。最後の中体連の地区大会。金山中との1回戦は、緊張のあまりいつも

のプレーができず接戦になりましたが、何とか勝ちました。その後の試合も勝ち上がり、飛騨地区1位で県大会に出場することができました。県大会、準決勝は新人戦の時に大差で敗れた大垣東との試合でした。この試合は負けてしまいましたが、それまでの試合で一番いいゲームができたところをはじめ、多くの方に褒めていただき、とても嬉しかったです。3年間、とても厳しい練習でつらいこともありましたが、多くの方々から支えられたおかげでバスケットボールを続けられ、心身ともに強くなったことに感謝しています。



中山中 (県大会優勝) : 女子バスケットボール部キャプテン 垣内 理菜

私たちは、県大会優勝・東海大会一勝を目指して、日々練習に取り組んできました。三年生は、七人という少ない人数でしたが、少ない人数だからこそ、強い絆が生まれ、最後の大会が近づくとつれて、思いも高まっていったように感じました。七人で苦しいときも必死に頑張りぬけたことが、大きな自信となっています。なかなか思うようにいかず、苦しいときもありましたが、仲間の支えや、

お父さん・お母さんの支え、コーチや先生の指導もあり、県大会優勝という成績を収めることができました。東海大会では、目標にしていた、東海大会一勝を果たすことはできませんでしたが、最後まで、精一杯戦い抜くことができました。中学校での、部活動は引退しましたが、自分たちが後輩に伝えられることはしっかりと伝え、また、高校進学後に活躍できるように、これからもがんばっていきます。

高校競技の部

ウィンターカップを終えて



高山西高校 面手優太

今回のウィンターカップは、3年生が数人残った中で、2年生のカラーを中心としたチームで挑みました。インターハイが終わり、それから約5ヶ月間、遠征や練習で、ディフェンスからブレイクを中心とした攻めを出来るようチームでこだわっていました。ウィンターカップ1回戦では、無事に勝つための、2回戦は大垣工業高校に負けてしまいました。力を全て出し切った気がせず、後味の悪い終わり方でした。それまでこだわってきたディフェンスからブレイクもあまり試合の中で出すこともできず負けました。この負けた

試合を通じて、もっともっと練習の質を濃いものにしないとけない。そうであればこれから試合で勝っていけないと感じました。新チームになりウィンターカップの敗戦、その悔しさを忘れず、でも新たに切り換えて今は練習を一生懸命やっています。次の試合は新人戦で、もう先輩達に頼ることは出来ません。チーム一人ひとりが練習の中で、もっと声を出して考えて悩み、強くなっていき試合で力を発揮したいです。その為にも、今はどんなつらい練習でも体で理解できるまでやり込んでいきたいです。また、僕たちがこのように部活に一生懸命取り組めるのは、周りにいる先生や保護者、チームを応援してくださる方々の支えがあるからだと思っています。今後も、感謝の気持ちを忘れず、部活をもっと頑張っていきたい、勝っていけるチームを目指します。



斐太高校 野村隆雄

ウィンターカップ県予選は、斐太高校男子バスケットボール部にとって本当に大きな大会であったと感じています。私たちはこの大会へ向け、毎日の練習に取り組んできましたが、3回戦で「100点ゲームをさるの大敗」という非常に悔しい結果に終わりました。その試合は、今

までの自分たちの練習や、試合に対する意識を見つめ直す大きな機会になりました。そしてさらに、その大会中に見た、「ウォーミングアップから全力で声を出すチーム」「熱い声援を送ってくださる保護者の方々」「試合後に見た仲間の涙…」そんな一つ一つの光景が本当に大きな刺激になっています。この大会で学んだ事をこれから生かし、「自分たちで高め合えるチーム」を目指して、人として、選手として成長していけるよう取り組んでいきます。



高山西高等学校 佐藤志保

ウィンターカップ岐阜県予選は3年生の先輩たちと共に戦った最後の大会です。お世話になった先輩たちに、少しでも良い結果を残して送られるに、私は日々の練習を大事にし、また、練習中は誰よりも大きな声を出して取り組みました。試合本番では、先輩たちの足手まといとならぬよう、自分たちの出来る精一杯の力を出し切れることを念頭にプレーしました。結果としては、惜しくも県立岐阜商業高校に敗れましたが、先輩

たちと最後まであきらめずに戦い抜くことができたことが、自分にとって大きな財産となったと思います。これからは新チームとなり、私たち1・2年生のみで戦うこととなります。新チームは技術体力共に先輩たちと比べかなり劣ることとなりますが、毎日の練習、そしてチームワークで追いつき、そして追い越せたらと思います。これから1年間、先輩たちの築いてきた「タロズ」の伝統に恥じぬよう、一戦一戦戦い抜きたいと思っています。1月に行われる新人戦では、県立岐阜商業高校にリベンジし、打倒岐阜女子高校を目標に頑張っていきます。応援のよろしくお願いします。